

# 永原校区まちづくりプラン (永原校区振興計画)



加治木八景の高岡公園より加治木の市街地及び桜島を望む

平成30年3月作成

始良市

永原校区コミュニティ協議会

## はじめに

平成27年度より、それまでの校区公民館制度より校区コミュニティ協議会に組織が変更になりました。それを機会として、永原校区のまち作りについて改めて考えようということになりました。

そこで、コミュニティ協議会運営委員の方々にアンケートを採り、自身及び周囲の方々の意見等をまとめて提出していただきました。それらを基に今後の永原校区のあるべき姿を考えました。それらの実現に向かってすぐに取り組めるものから行政等の協力をいただかなければ実現可能でないものまでを考え、どのような手立てを用いて素晴らしいわがふるさと永原を作っていくのか検討しました。

まだまだ十分とは言えませんが、目指すべき『将来の永原』のためにみんなで協力して、少しずつでも前進していきましょう。そのための一つの目安となればと考えています。

平成30年3月

永原校区コミュニティ協議会  
会 長 中森 春志

# 1. 校区の現状と課題

## (1) 校区の概要

始良市加治木町の中心部から西北部へ、県道加治木溝辺線を約4km、飯地坂を登り切った約140mの台地上にあります。西別府地区と辺川地区合わせて429世帯、870人が暮らす風光明媚な自然に恵まれた素晴らしい環境です。西別府地区は主に隈原ブランドの人参生産など畑作中心、辺川地区は稲作を中心としたどちらも農業の盛んな地域です。

校区には、縄文時代以降からの土器等が出土されており、大昔から人々が定住していたと考えられます。

### □主な地域資源

交通	公共施設等
バス いわさきバスネットワーク 巡回線 道路	校区公民館 高岡公園 加治木農産加工センター 西別府簡易郵便局
産業	旧跡・神社仏閣
農業 主に米作り 野菜作り 隈原ニンジンが有名 加治木産業	史跡 田の神(隈原・菖蒲谷・桑迫・桃木野) 神社 大山神社・鎮守神社・永原神社 隈原神社
教育施設	祭り・イベント・伝統芸能
始良市立永原小学校	夏祭り 吉左右踊り・太鼓踊り (県指定無形民俗文化財) 辺川の棒踊り

### □校区内の主な取組み

校区グラウンドゴルフ大会(5・12月) 夏祭り ふるさと学寮  
校区運動会 ふれあいバザー 高齢者サロン 永原スポーツの日  
3のつく日あいさつ運動 歩こう会 チャリティゴルフ 等

## (2) 現況と課題

### □人口の推移等

昭和60年には、463世帯で1325人の人口だったが、現在429世帯で870人となっている。1世帯あたりの人数が、2,9人から2,0人と減少してきている。若い世代が少なく、高齢者の占める割合が年々高くなってきている。しかも、高齢者の独居の割合も高くなってきており、早急な対応が必要である。

## □高齢化への対応

人口の減少とともに永原校区は、始良市において北山・漆に次いで高齢化率の高い地域になっている。小学校の児童数減少とも関わりがあり、計画されている市営住宅への入居の希望が殺到するような魅力ある地域作りに努めなければならない。若者が定住できるような環境作りを図っていかねばならない。

- 地域内にある企業の社宅・寮等を行政の補助を受けられるようにして、集合住宅整備へ対応可能か協議する

## □防災への取組み

集落同士を結ぶ道が狭く、崖崩れ等の可能性の高い箇所が多くある。そのような場合の代替道路があまりなく、災害発生時には孤立する可能性が高い集落が多く考えられる。また、高齢者が多く、災害発生時の初期段階の助け合いがうまくいかない場合が考えられる。

- 消防団員の協力を得ながら、災害時の避難場所への誘導等の手助け
- 地区公民館を災害避難所として活用しやすい新しい建物へ移行する計画を行政と協議

## □住環境の整備（空家等の有効活用）

早急に手を打たなければ荒れ果てて行くであろう空家が数多く見受けられる。安全面から考えても家として再活用を図るか、壊していったんは更地としておき、次の活用方法を考えるなどしなければならないと考える。

- 集落間の道路が狭く、交通の便が悪い。整備が必要
- 空家が多く見られる。借家への協力
- 空家は、整備できる物は手を加えて、農業体験・自然ふれあい体験等の宿用として活用を検討

## □伝統芸能の継承

高齢化に伴い、正しく踊り・唄える人がどんどん少なくなっている。永原小学校において、運動会等で踊るために指導を受けてきているが、地元に残る児童は限られており、後世まで伝えていくための踊り手の確保及び指導者の確保は年々困難になっていく状況にある。また、寄付金や各自治会住民からの協賛金等で運営しているが、人口減少によりこの面においても厳しくなってくると考えられる。

- 県の無形文化財である太鼓踊りを保存していくには、地元の多大な協力が必要
- 太鼓踊り、棒踊りを若い世代へ引き継ぐ対策が必要

## □学校の児童数対策

地元在住の児童減少に伴い、平成16年度から特認校制度を制定し、主に旧加治木町内の学校からの児童を受け入れてきている。しかし、その対象3校の児童数も減少してきており、特認校生に頼る児童数の確保に頼っている

だけでは、本質的な対策にはならない。だが、地元在住の児童が急激に増加することは現状では考えにくい。従って、他校区の児童を惹きつける学校・地域の魅力を今まで以上に発信していかねばならないと考える。

○児童が年々減少している。宅地借家の提供が必要

○ふるさと学寮を多くの人に知って頂き、校区外の児童の受入が出来るように協議していかねばならないか

※ 永原校区の課題は、人口減少と高齢化の促進に帰結していると考えられる。市営住宅の導入としても本質の解決にはならない。交通弱者(免許のない高齢者や子どもたち)にとって、利用しやすい交通機関・体系が確立されなければ、解決には至らないであろう。まずは、解決可能なものから全住民の協力のもと取り組んでいかねばならない。

## 2. 校区が目指す将来像

(将来像)

住みやすい、活気あふれる永原校区

幼子から高齢者まで安心して暮らせるわがふるさとに

### 3. 分野別の基本方針

将来像を達成するために、コミュニティ協議会の3つの部会ごとに「目指す姿と方針」を掲げ実現に向かって行動します。

総務部	目指す姿
	活力ある永原校区 コミュニティ活動を地区の活力となるように
基本方針	コミュニティ協議会と各自治会との連携での地域作り・人づくりを図る 各自治会代表者が地域全体の状況を思い協力する姿を作る 安心して生活していける地域環境づくりに努める

社会教育部	目指す姿
体育文化部	健康で安心な地域 高齢者と青年部、子どもたちの絆を強く
基本方針	いつまでも若々しい高齢者でいることが出来るように子どもから大人までお互い親睦を深める スポーツ活動、もの作り活動を通して高齢者と青年の融和を築き未来へ

青少年育成地域づくり部	目指す姿
	あいさつが出来る明るく素直な青少年育成 自然を大切に自然と共存する人間を目指す
基本方針	学校と連携して、地域の子どもとして、地域全体で各種体験やふれあい活動等で健全な育成に努める。 校区の素晴らしい自然環境を生かし、自然とのふれあいが人と人との和を保つこと、自然無くして人は育たない



#### 4. 主な取組みと実施時期・役割分担

3つの部会別の基本方針に沿って、今後取り組むべき取組みとその時期、役割分担を以下のように整理します。

##### ○施策時期について

短期	1～2年で取り組む
中期	3～5年で取り組む
長期	6～10年で取り組む

##### ○役割分担について

校区	校区内で取り組むこと
協働	校区と行政で取り組むこと
行政	行政が取り組むこと

#### 総務部

##### 今後取り組むこと

施策	実施時期			役割分担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	校区	協働	行政
地域が自治会の大切さ, 人のつながりの大切さを思い合う活動 <input type="checkbox"/> 地域活性化のイベント <input type="checkbox"/> 地域人材の掘り起こし <input type="checkbox"/> 安全な交通網・防災対策 <input type="checkbox"/> 空き家活用対策	△○	●			◎	

※△（検討期間） ○（準備期間） ●（実施期間）

社会教育・体育文化部

今後取り組むこと

施 策	実 施 時 期			役 割 分 担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	校区	協働	行政
スポーツ大会, もの作り体験を通じて世代を超えたコミュニティを作る <input type="checkbox"/> サロン活動 <input type="checkbox"/> スポーツの日 <input type="checkbox"/> 地域(自然・公園等)を有効活用した活動 <input type="checkbox"/> 地域の史跡等の掘り起こし	△○	●		◎		

※△ (検討期間)    ○ (準備期間)    ● (実施期間)

青少年育成・地域づくり部

今後取り組むこと

施 策	実 施 時 期			役 割 分 担		
	短期 1～2年	中期 3～5年	長期 6～10年	校区	協働	行政
地域のもの作りを継ぐ人々に若い世代が参加して人の和が出来るように <input type="checkbox"/> 子どもと地域住民の交流の場 <input type="checkbox"/> 学校行事での住民との触れ合いの場	△○	●		◎	◎	

※△ (検討期間)    ○ (準備期間)    ● (実施期間)



## 5. 計画の推進について

以上のように、『住みやすい 活気あふれる永原校区～幼子から高齢者まで安心して暮らせるわがふるさとに～』を実現し、永原校区コミュニティをさらに発展させていくうえで、取り組むべきことは多くあります。計画はすぐに実行は出来ないものもあります、あわてることなく相談する機会を数多く重ねて、高齢者・青年部世代が共に未来へ向かう必要があります。

□今回策定した「永原校区まちづくりプラン(永原校区振興計画)」を、地域全体の計画とするために、全住民への周知に取り組み、理解を図ります。

□計画を推進していくためには、地域づくりのための仕組みづくりが必要です。校区コミュニティ協議会を中心に地域住民、自治会、行政、NPO 等が参加、参画、連携、協働することにより、計画の実現に向けて努力していきます。

□計画の推進にあたっては、何に取り組み、予算はどう配分するのかなどを、民主的に透明性をもって決定していきます。

□計画の推進にあたっては、人材の適材適所、地域内の人材の掘り起こしに努めます。

□計画は進捗状況を確認し、必要に応じて見直しを行っていきます。見直しが必要になった際には、コミュニティ内で話し合う場を設定し、行政を交えながら計画を推進していきます。

## 6. 校区の史跡・伝統芸能等

### ◎吉左右踊り・太鼓踊り



(始良市 HP より)

吉左右踊り・太鼓踊りは、加治木町西別府地区のみに伝承しているもので、市内 8 地域に残る太鼓踊りの中でも唯一県指定文化財になっています。「吉左右 (きそ)」とは、「めでたい便りを祝う」という意味で、毎年 8 月 16 日に島津義弘を祀った精矛神社などに奉納されます。

先導する白・赤装束の踊り手は、朝鮮出兵の際、道に迷った薩摩軍を案内した狐を表し、背の高い薙刀を持つ踊り手は朝鮮の兵、小柄で日本刀を持つのは薩摩の兵をそれぞれ表現しています。文禄・慶長の役をモチーフとしていますが、歌詞には「お互い武器を捨て、平和な世界を築きましょう」とあります。

### ◎水神様



永原小体育館裏の四つ角にある。

## ◎菖蒲谷の田の神様 明治14年(1881年)

福ヶ迫氏宅道路向かいにある。一般的に「タノカンサー」と呼び、江戸時代の薩摩藩領内で作られた独自の文化です。総数は1500体を超すとされており、校区内にも他に隈原(神社敷地内)・桑迫(公民館庭)・桃木野(集落道路沿い)等にもあります。(市教委 田の神ガイドブックより)



## ◎髭滝(かもしがたき)

島津義弘の奥方であった隈姫が、離別された時に自分の領地であった辺川に戻り、川に身を投げて自殺された。お付きの者が、投身殉死した。滝の中頃にあった藤蔓に髪の毛がかかったので、この名がついた。(隈姫神社由緒より)

飯地坂を登る右手側にある。

平成30年3月

発行：永原校区コミュニティ協議会

〒899-5201 始良市加治木町西別府 2490-2

TEL (0995) 73-5287

FAX (0995) 73-5288